

2026 生誕 100 年 没後 20 年 記念のつどい

時を  
超えて  
生きる  
言の葉の森

1926.6.12 - 2006.2.17



詩人  
茨木のり子

6.6<sup>±</sup>

13:30 開演

(開場 13:00) 16:35 終演

タクトホームこもれび

GRAFARE ホール(メインホール)

入場料 1000 円 (全席自由)



創作朗読劇 詩人 茨木のり子の贈物 ~小さな渦巻にひきよせられて

出演:橋口紀子と仲間たち 作・演出:橋口紀子

暮らしと創作の場 東伏見の家

動画で紹介 茨木邸 & 詩の朗読

出演:のり子さんの詩に出会うかい

女声二部 合唱 オリジナル曲を歌う

指揮:橋本いづみ 伴奏:安達喜美子

出演:茨木のり子の歌うたい隊

これまでも これからも のり子さんと共に 多彩な表現でアプローチ

出演:アコーディオン弾き語り 志賀澤子 / エッセイ朗読 松島 邦 / 独唱 黒川京子

詩朗読 山川建夫 / 詩朗読 李 孝心 / ピアノ弾き語り 吉岡しげ美

チケット購入  
連絡先

こもれびホール窓口 & ☎ 042-421-1919(受付時間 9:00~22:00)

牧子 ☎ 042-467-3854 ☒ mmarea0912maymine@yahoo.co.jp

柳田 ☎ 042-461-3246 ☒ y.yanagita@nifty.com

主催 茨木のり子の家を残したい会 後援 西東京市・西東京市教育委員会



## 朗読劇

### 「詩人 茨木のり子の贈物 ～小さな渦巻にひきよせられて」

出演 橋口紀子と仲間たち

井坂敬子・金子京子・加藤芳秋・川本洋子・菊池範子・坂口照子  
篠聡志・谷邦子・新野由紀子・藤美徳・増田恵津子・室原俊一



茨木のり子さんは、多くの人々との出会いの中で、たくさんの素晴らしい贈物を貰ったと、「小さな渦巻」という詩に記しています。茨木さんの人生に大きな影響を与えた父、祖母をはじめ、旧保谷市茨木邸に集まった「同人誌・権」のメンバーたち。共に昭和を歩んだ個性溢れる面々が、詩人茨木のり子を語ります。7篇の詩を織り込みながら、30代から80代までの仲間で作りに上げてきた茨木さんの軌跡です。  
作・演出 橋口紀子

## 暮らしと創作の場 東伏見の家

出演 のり子さんの詩に出会うかい



茨木さんが1958年に建て、亡くなるまで48年間暮らした西東京市東伏見の家。昨年相続された甥の宮崎治さんが修繕され、凜とした佇まいです。家の周辺・内外を動画と写真でご紹介しながら、暮らし・韓国・時代・安信さんのテーマで選んだ15篇の詩を20人の声でお届けします。

## 女声二部合唱 オリジナル曲を歌う

出演 茨木のり子の歌うたい隊 指揮 橋本いづみ  
伴奏 安達喜美子 ピアニカ 富沢より子

うたい隊は2022年1月に発足。茨木のり子の詩は女声二部曲が少なく、メンバーが作曲したオリジナル曲を中心に活動しています。「六月」「波の音」他、演奏します。



## これまででもこれからも のり子さんと共に

志賀澤子●アコーディオン弾き語り



劇団東京演劇アンサンブル 女優・演出家・プロデューサー。茨木のり子の詩を、音楽家や、踊り手とコラボのコンサートで語ってきた。その詩に向かい、声にし、のり子の心が、立ち現れる瞬間の喜びを味わう「のり子さんの詩に出会うかい」を主宰している。

松島 邦●エッセイ朗読



朗読家・朗読講師。NPO 日本朗読文化協会会員。のり子の夫君・母親と同じ山形県鶴岡市出身。同市の朗読グループと「全詩集」の勉強会をもつ。同郷の工学博士・佐藤建吉氏からの声掛けで、都周辺地での朗読会に参加。のり子さんの詩の世界とその表現を探りつつ、見守る気持でいる。

山川建夫●詩朗読



フジテレビ入社後、生命よりマネーが大事という現代社会の仕組みに気付かされました。さあどう生きるのか？その問いにのり子さんの作品たちが答えてくれました。彼女から頂いたエネルギーを皆さんにお届けしたいと思っています。

李 孝心●詩朗読



30年前から名古屋で暮らしています。ソウルでは高校で歴史を教えていました。名古屋では韓国・朝鮮語と歴史を教えています。50代の頃は毎年3月1日式典で「三一独立宣言書」を全文読む機会が与えられました。ここ数年からは子供たちに絵本の読み聞かせを楽しんでいます。アマチュアな一人ですが、大好きな「六月」詩を若い世代に思いを込めて朗読したいです。

吉岡しげ美●ピアノ弾き語り



茨木のり子さんの詩に初めて曲をつけさせていただき歌ったのは1978年。それから48年。私の生きる指針ともいえる茨木さんの詩の数々に作曲し歌い続けて来た。茨木さんの詩には、流れゆく時代の中で自分自身に、社会に、そして世界に、きっぱりと歌わなければならない詩がいつももある。

会場案内図



<表の背景切り絵(茨木邸玄関から門までのアプローチ)作・山田隆>